



補聴器を使った耳鳴りの新しい治療

耳鼻いんこう科・頭頸部外科 辻 亮



従来、耳鳴りは「原因不明で治らない病気」と考えられてきました。しかし研究の進歩により耳鳴りの原因が解明されてきて、新しい治療も開発されつつあります。

音は耳の中に入ると、最終的には電気信号となって脳にまで届き、ここで初めて音として認識されます。つまり音は耳で聞いているのではなく、脳で聞いているのです。一方、耳鳴り患者さんの9割に難聴があるとされており、この二つの関係は非常に深いものです。

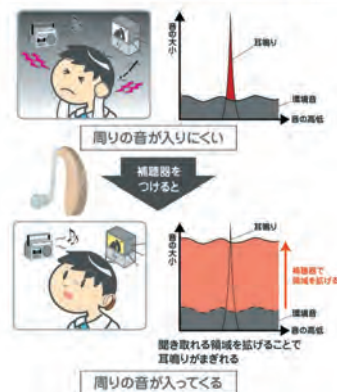
脳は電気信号（音の刺激）が十分に届くことによって、安定した活動をしています。

難聴があると脳に届く電気信号が減ってしまうため、脳は不安定となり、活性化してしまいます。すると活性化した脳は勝手に電気信号を増幅し、その刺激が耳鳴りになっていると考えられています。耳鳴りのある人の聴力検査をすると、難聴が存在し、また多くの方が聞こえにくい音と近い音色の耳鳴りがしています。

最新の治療法として補聴器を使った耳鳴りの治療が注目を浴びています。耳鳴りの原因は難聴であるため、補聴器を使って難聴の部分の音を補うことで脳に届く音の刺激（電気信号）を増やすこと

になり、脳の活性が落ち着き、安定した活動に近づくことができます。この治療により9割以上の方が改善したとの報告もあり、現在耳鳴りを治す最も効果的な治療と考えられています。

▶ 難聴の方は、補聴器を付けて音の豊富な環境を作りましょう



3月分

研修・講演・学習会のご案内



1. 地域連携症例検討会

日時：3月9日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

1) 症例検討（2例）

- ① 『低年齢児に発症した広範な顎骨嚢胞の1例』
- ② 『局所進行型胸腺癌の1手術例』

歯科口腔外科 朝倉みな実
 呼吸器・血管外科 山本 優
 循環器内科 桶家 一恭

冠動脈疾患・心房細動・弁膜症術後・肺塞栓症など循環器疾患の多くで抗血栓療法が必要となる。なかには、抗血小板剤と抗凝固薬療法の療法が必要となったり、出血や手術のため中止が必要となったりする患者も少なからず存在する。これらの循環器疾患に対する抗血栓療法は、欧米のガイドラインが先行し、本邦でも循環器学会が中心にガイドラインを作成し、2019年には、「急性冠症候群ガイドライン」や「安定冠動脈疾患の血行再建ガ

イドライン」が発表された。しかし、本邦では欧米諸国に比して、出血リスクが高く、欧米のものをそのまま適応することが困難なことや、ここ数年で新たなエビデンスも多数発表され、2020年3月に、日本循環器学会より「冠動脈疾患患者における抗血栓療法、2020年JCSガイドラインフォーカスアップデート」が発表された。

今回の会では、このガイドラインを中心に抗血栓療法について発表を予定している。

予告

日時：4月13日（火） 19：00～20：15 当院3階 講堂

内容：①症例検討 2例 （担当）消化器内科・緩和ケア内科
 ②ミニレクチャー （担当）眼科

※定例の研修会、看護研修、衛星研修S-QUE視聴研修

当面の間、開催を中止いたします。

衛星研修S-QUE研修の資料をご希望の方は、ふれあい地域医療センターへご連絡ください。

S-QUE Eナース

- 配信期間 3月8日～4月5日
嚥下評価～食べられる口を維持する看護
- 配信期間 3月22日～4月19日
退院支援に活かす看護データ



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

脳神経外科外来 移転のご案内

脳神経外科外来が、2月より外科のとなりに移転いたしました。



専門職員の紹介

医療機器を トータルで管理する



臨床工学技士 熊代 佳景

臨床工学技士は医療機器を取り扱う専門の医療職です。院内で医師・看護師や各種医療技術者とチームを組み生命維持装置や多くの医療機器の操作・管理を担当しています。また院内の医療機器が、いつでも安心して使用できるよう保守点検を行っており、安全性確保と有効性維持に努めています。

近年、医療機器を管理・装着しながら、入院または退院（転院・在宅）される患者さんが増えています。これまで臨床工学技士は、心臓植込みデバイス（ペースメーカー・植込み型心臓モニタ（ICM））や呼

吸療法装置（人工呼吸器・NPPV）、CPAP（在宅持続陽圧呼吸療法装置）、酸素療法（HOT等）、経腸栄養ポンプ、携帯型輸液ポンプなどの医療機器に携わってきました。

医療機器は高度機能化・小型化が進んでおり、心臓植込みデバイスでは一定の条件下でMRI検査が可能となり、急速に普及しています。また在宅医療の重要性が高まるなか、ICTなどの通信技術を活用した遠隔モニタリング搭載のデバイスも増えています。このように年々、医療機器管理は複雑さを増しています。

私たち臨床工学技士は可能な限り、患者さん一人ひとりのおかれている立場や背景を正確に把握し、細心の注意を図りながら、医療機器を管理するよう心がけています。入院または退院される際も、患者さん、家族、地域のスタッフの皆さまと、密にコミュニケーションを取り、不安や心配を取り除けるよう尽力していきたいと思えます。

今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

3月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	寺崎敏	26日	精神科	長谷川雄	17日・19日
	水野	17日		西田	30日
	茶谷	10日	形成外科	宮下	2日
	山田和	31日		田中	17日、31日
	栗田	16日	皮膚科	野村佳	19日
	堀越	19日		北野	29日、30日、31日
	本江	10日	眼科	山田芳	1日
	赤崎	1日		狩野	8日、29日
脳神経外科	白浜	31日	耳鼻いんこう科・頭頸部外科	辻	25日、26日
整形外科・関節再建外科	重本	5日、25日		吉川	4日、31日
呼吸器・血管外科	湖東	2日	歯科口腔外科	朝倉	8日、29日
			健康管理科	堀江	22日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112（代）内線2168

編集後記

私は、入院前の支援業務を担当しています。当院では新型コロナウイルス感染症対策としての面会禁止が続いており、入院を控えている患者さんやその家族にその事をお伝えする際には、「さみしいですね、ご心配ですね」と声掛けし、不安な思いに寄り添うよう心がけています。同じ思いで対応しているスタッフの姿を見ると、マスクに隠れて表情は半分しか見えないけれど相手を思いやる気持ちが私にも伝わり、自然と心温まります。

この寒さもあと一息でしょうか？ 元気な春を迎えましょう。

ふれあい地域医療センター 笹山 知香子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp